

フィルム印刷 はじめました。



MHL18A

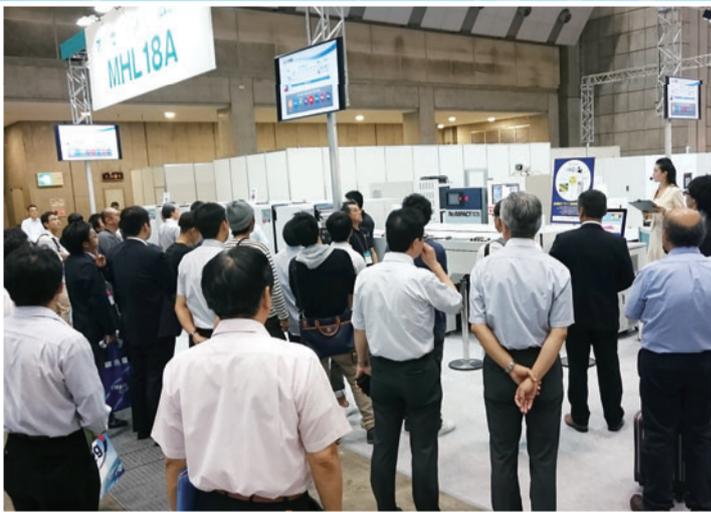
オフセットフィルム印刷機

昨年の夏頃より「オフセットフィルム印刷機」の導入を計画し、入念な打ち合わせとテストを繰り返しながらようやくスタートラインに立てる日を迎える事が出来ました。そこで、先ずこの計画の全容を皆様へ説明させていただきます。

簡単に言うと“軟包材に対するフルカラー印刷”になります。従来の紙を媒体とした紙工印刷とは別にフィルムを媒体としたフィルム印刷、すなわち軟包装などの印刷に着手し、幅広い印刷を手掛けていこうと考えています。

小ロット・短納期・高品質

印刷機の名称は『ミヤコシ製スリーブ式 LED-UV オフセット印刷機 “MHL18A”』と長いネーミングになっていますが、最新の技術を駆使した設備や技術が多く取り入れられ過去には無い程ハイスペックなマシンに仕上がっています。この印刷機を導入する目的・メリットとして、①小ロット、②短納期、③高品質の3つを挙げています。現在市場で伸びてきている軟包装分野に参戦する事で従来とは違った分野の顧客獲得を狙い販路を拡大する。また、オフセットで印刷する事でフィルム業界では困難とされている小ロット対応が可能となり、高品質かつ短納期といった強みを活かした運営を目指しています。



IGAS2015に出展

9月11日～16日に開催されたIGAS2015ではミヤコシ社よりこの印刷機(MHL18A)が出展され、デモ印刷の度に人だかりが出来るといった大盛況ぶりで幕を閉じました。後にミヤコシ様に来場者の反応などをお聞きしましたが、驚かれる方や感心される方が多く、反響は大きかったそうです。開催中には取材依頼まであり、業界が注目していると言っても過言ではないと思います。

フィルム印刷事業を始めるにあたって、当社の歴史の中でも未経験の部門という事もあり高揚感とプレッシャーが入り混じり、何とも表現し難い心境ですが、やるべき事はただ1つ、この事業を成功させる事です。今後の溝端紙工印刷にとって大きな変革の礎を築けるよう与えられたチャンスを最大限に活かし日々精進したいと思います。(印刷課 坊 孝章)



フィルム印刷
取材殺到中!!

『コンバーテック』誌 に掲載されました

昨年11月、いよいよフィルム印刷のフルスペックマシン、ミヤコシ製「MHL18A」が搬入、設置されました。当紙前号でも紹介された通り、「小ロット、短納期、高精度」のための最新装置を多数搭載するこのマシンは社内外に大きな反響を呼んでいます。

まだ試運転中にもかかわらず、12月にはさっそく2誌の取材があり、また新しいお得意先として期待できるユーザーの見学も次々とあり、海外からの見学も含めて今後もいろいろ予定されています。



これまで基本的に部外者立入禁止だった当社も、まだ業界でも馴染みのない「オフセットでフィルム印刷」の周知と新しい販路獲得のために、このマシンに限り、見学ウエルカムのスタンスを取っています。

見学されたユーザーの評価は軒並み上々で、これまでグラビアやフレキソ印刷では不得意であった基材(ロール状のフィルムのもとになる材料)も難なく印刷でき、またその精度の高さに一様に感心されていました。ありがたいことに、さっそく「本番」の仕事をお願いしたり、新しい基材のテスト依頼も寄せられています。

取材に関しては、ひとつは月刊『コンバーテック』(加工技術研究会)。フィルム・シートの基材、印刷、加工技術情報誌で、内容はかなり専門的なものになっています。もうひとつは『包装タイムス』(日経ビジネス)。こちらは読んだことがあるひとも多いと思いますが、当社も得意先やお取引先も何度も掲載されている業界新聞で、需要家動向から包装に関わる各種データの紹介など週刊で鮮度の高いニュースが掲載されています。各誌の記者は「専門家」としての視点、観点から「圧巻ですね」「これは凄い」などの感想を述べられていました。

今年はこの「フィルム印刷」を新しい事業の柱のひとつに育て上げるために、これらのシステムを如何なく発揮できるように製販力を合わせていく必要があると思います。

国内はもちろん、 海外からも注目されています!

『コンバーテック』・『包装タイムス』に続き『印刷新報』でも取り上げられました。国内から期待も上々の中、海外からの見学や海外版の『コンバーテック』にも取り上げられ、海外からも注目を集めています。



▲海外版コンバーテック



▲印刷新報



オーストラリアの宿の
見学風景